



ご あ い さ つ

東京都 T B G 協会理事長

岡崎 一夫

東京都ターゲット・バードゴルフ(以下 T B G)協会は、2009 年 4 月設立 20 周年を迎え、関係者の皆様とささやかな記念式典及び記念大会を催すことができました。

日本 T B G 協会・東京都レクリエーション協会及び関係行政機関・地域体育施設関係の皆様のご支援と、会員の皆様の活発な活動に深く感謝申し上げます。

本記念誌は、当協会 15 周年記念誌以降の 5 年間を対象に活動記録を纏め、各地域協会の皆様の日常活動・普及活動にも活用できる記録誌として編纂されました。

この 5 年間の活動成果を、「15 年のあゆみ」と比較しながらご覧戴きますと、私どもの活動が「成長期から充実期に転換」してきたことが浮かび上がってきます。

当協会主催の大会参加人員は、この 5 年間で毎回平均 50%以上増え、27 ホール設置可能な会場の確保・大会運営方法の改善など、主管地域協会・競技委員会の皆様に多大な努力と工夫をして戴きました。

当初、当協会は T B G を『生涯スポーツ』として普及・振興することを目的として成長して参りましたが、近年 T B G を『競技スポーツ』の側面も併せ持つスポーツとしてその活動を展開して参りました。

理事会・競技委員会を毎月開催し、競技会ソフトの共同開発による大会事務処理の迅速化やホームページ・メールの活用など、活動基盤の整備も進展しております。

そうした観点から新しい活動の展開を考える時、いくつかの課題が見えてきます。

第 1 の課題は、正会員・公認指導者が 5 年前より増え、平均的な技術力は上がっている一方で、新規加入者が少なく平均年齢が上昇し、準会員を含めた会員数は減っているという「成長期から充実期へ移行後の停滞期の兆候」にどう対応するかということです。

第 2 の課題は、次世代の各地域協会役員にどう育てて戴くかということです。自分が楽しむだけで良いというメンバー (A) と、自分が楽しむだけでなく全体のために注力しても良いというメンバー (B) のバランスが崩れると、組織力が衰退する恐れがあります。

第 3 の課題は、従来からの会員の技術力が上がり親密さが増している中で、新規加入者の受け入れ態勢を技術面と精神面から整備し、新しい人が入りやすく定着しやすい仕組みをどう作っていくかということです。ここでは「自分だけが楽しめれば良い」というメンバー (A) の方にも協力をお願いしたいと思います。

本年 1 月の代表者会議及びその後の理事会・臨時総会でのこうした議論の中から、当協会は普及委員会を中心に、「東京の T B G を再び成長軌道に乗せよう」という 3 カ年計画による「会員拡大プロジェクト」に取り組むことと致しました。

本記念誌はそうした取り組みとともに、第一世代から第二・第三世代の T B G 愛好者に活動の展開と継続をスムーズに引き継ぐことを願って、編纂したものであります。

本誌発行に際して、広報委員会及び各地域協会広報担当の皆様のご協力・ご支援に感謝申し上げます、多くの方々にご活用戴きますことを祈念して、ご挨拶と致します。